

「力は正義の弱肉強食の野獣の世界で領土・領海を守るための国民の心得」

東京大学名誉教授 矢作直樹

言うまでもありませんが、世界は未だに力は正義の弱肉強食の野獣の王国です。私たち日本人は、国内にあっては本来のお人好し同士のお付き合いでやっていけるのが理想です。一方、外国と相対するときは頭を切り替えて心を鬼にして野獣の相手をしなければなりません。間違っても私たちが同士のような善意で通じる相手と思っかけてはいけません。

言わずもがなですが、昭和天皇が先の大戦を終結に導かれた昭和二十二年八月九日の御前会議での御聖慮「わたしの任務は、先祖から受け継いだこの日本という国を子孫に伝えることである。」を国民一人ひとりがしっかりと噛み締めることが大切である。

この世界や国々が国際金融資本の影響で動いているという大枠は理解しつつも、実際に列強同士が利益をかけて権謀術数の限りを尽くすのが現実です。先の大戦敗戦時に米國がわざと日露の火種として残した北方領土、我が国の武装解除状態の隙をついて大韓民国が不法占拠した竹島、黙認した米國は日韓の火種を残した。この一世紀あまり我が國が実効支配していることを承知で中華人民共和国が奪取の可能性を探る尖閣諸島と、それぞれ困難な課題です。このような課題について貴会の積極的な運動には誠に頭が下がります。



矢作直樹氏

昭和56年金沢大学医学部卒業、麻酔科を皮切りに救急・集中治療、内科、手術部などを経験。平成11年東大工学部精密機械工学科教授。平成13年より東大医学部救急医学分野教授および東大病院救急部・集中治療部部長。平成28年3月31日、任期満了退任。東京大学名誉教授。日本人がかつての死生観を思い出すことでより心豊かに暮らしてほしいと願い、「人は死なない」(リビリコ)、「天皇」(扶桑社)などの著書を書いた。http://yahaginaoki.jp/

一方、中華人民共和国が今まさに情報と経済を支配するという謀略により孤立を狙う沖縄、あるいは法律の盲点をついて虫食い状に侵食する国内の水源など新手段の侵食が顕著になってきました。さらに、地方自治体に食い込んで外国人地方参政権獲得による政治への容喙、いわゆる人の海外作戦、などについては我が國民がしっかりと自覚を持って阻止することが大切な論を待ちません。

「神道政治連盟島根本部と竹島の領有権確立運動」

神道政治連盟島根本部長

忌部正孝

神道政治連盟について

「神道政治連盟」という団体について初めて耳にする方も多いため、まず私どもの活動から紹介いたします。

この機関誌を愛読の方もご存じの通り、先の大戦終結後の我が國は甚大な戦災に加えて、連合軍総司令部(GHQ)の占領政策により大きな混乱に見舞われました。GHQの目的は、日本が再び連合国の脅威となる事のないように、国柄と国民意識の変容を迫るものであったからです。

皇室と国民とが一体となって歩んできた我が國の歴史を軽んずるかのような占領政策が、圧力の下に次々と施されます。その最たるものが、GHQの草案を受け入れる形で制定させられた「日本国憲法」です。強引な制定過程も問題ですが、日本の歴史も文化も反映していない憲法の施行は、国柄の否定とも言えます。

幸いなことに我が國は戦後の荒廃から見事に立ち上がって大きく繁栄し、今では世界有数の経済大国です。その一方、今日の政局の混乱や国際情勢の急激な変化、極端な個人主義の蔓延や青少年の痛ましい事件などを見ると、果たしてこのままでよいものかと疑問を抱かれる方もあるのではないのでしょうか。

このような認識のもと、神社関係者を中心に結成されたのが神道政治連盟であり、皇室の尊厳護持や教育の正常化を中心に、悠久の歴史の中で育まれてきた我が國の精神文化を後世に正しく伝えるための活動を展開しています。



水若酢神社 宮司 忌部正孝氏

http://okinoshima.info/mizuwaku/

神話と領土・領海

さて、我が國の神話には、領土・領海は神々のお力によって形づくられてきたと記されています。

その代表は、『古事記』・『日本書紀』にあるイザナギ・イザナミの二柱の神さまが夫婦の契りを交わし、力を合わせて国土の基をつくったとする記述です。これは「国産み」とも言われます。

また、島根県の様々な伝承を記録した『出雲国風土記』にはヤツカミズオノオノミコトという神さまが登場し、出雲部の土地を広げるために朝鮮半島の余っている土地に綱をかけて引つ張ってきたと伝えています。これは「国引き」と呼ばれています。

あることは前々から様々な角度から指摘されていたにもかかわらず費用を惜しんだ東電により対策は実現しませんでした。

将来的な存立の帰趨を考えると同時に、まず天変地異による事故だけでなくミサイル攻撃やテロへの対策も視野に入れ運営責任を國に、また自衛隊の警護対象とするくらいには必要と考えます。その場合には自衛隊が無理なく動けるための法的整備や予算措置が必須です。

いずれも国民一人ひとりが現状を適切に把握することが先決です。そして、我が國はいうまでもなく國・地方自治体ともに議会制民主主義の法治国家ですので、勇気を持って地方自治体や政府機関などに意見を伝えたり投票行動によって意思を示したりといった行動に移すことが求められています。世論が動かなければ政治が動きません。この点は強調しすぎることはありません。

子孫に引き継ぐためにもどうか国民として当事者意識を持って真剣に行動したいものです。インターネット・書籍や人から一次情報を広く集め、俯瞰的統一的にみて処理し、理性と直感のバランスをとって判断するメディアリテラシーを磨くことが大切です。そして守るべきものためには金や脅しに屈しない道徳心、勇気と胆力を養うことです。

また、時間がかかることですが私たちが本當の國土を政治の世界に送り込めるような活動を私たちが盛り上げていくことが必要と考えます。そのためには、まず我が國の文化歴史と世界の真相について学校での副読本を用いた教育、世間での普及活動を通して周知させていくことです。そして将来性のある若者を育てることです。すでに多くの方々が多様な活動をされていますので、今こそこれらの方々の方々の力を結集する場を作っていくことが急務と考えます。

おそらく、各地に地元の開拓神の伝承があったことでしょう。私どもが暮らしている日本は、その隅々まで神さまのお力と深い関わりがあるということなのです。

そして、神さまのお力とは、人間の力が及ばない自然界のさまざまな力の働きや恵に加えて、先人たちの営みです。土地を耕して田畑をつくること。山に入り木材を扱うこと。漁や海運で海に出ること。先人たちは自然への畏敬の念を示しつつ、様々な出来事乗り越えて今日まで歴史を重ねてきました。

その先人の軌跡のある場所が、今日では我が國固有の領土・領海として認識されています。私どもが日々平穏に暮らせ、また自由な活動ができるのも、この領土・領海に守られているからこそなのです。

竹島の領土権確立運動について

現在、島根県隠岐郡隠岐の島町の竹島は、韓国により不法に占拠されています。昭和二十七年、韓国は日本海上に一方的に李承晩ラインという境界線を設定し、これに竹島を取り込みました。

しかし、島根県等の研究資料をこ一読頂ければ明らか通り、竹島は我が國固有の領土です。古くは朝鮮半島との交易の中継地、近代ではアワビやサザエ、日本アシカの水産資源として隠岐の島の先人により経済活動が継続的に行われていました。

日本政府は韓国の不法占拠に抗議し、国際司法裁判所への付託も提案してきました。しかし、時間の経過とともに不法占拠は常態化し、竹島問題は取り上げられなくなり、領土・領海に関する教育の不備や、偏った平和主義の下での国防意識の低下などもその一因でしょう。地元隠岐郡をはじめ、竹島問題に取り組んできた有志は、危機感を抱きつつありました。

そのような中、島根県議会は竹島の島根県所管一〇〇周年となる平成十七年に、二月二十二日を「竹島の日」とする条例を可決。「竹島の領土権の早期確立を目指す運動」を推進し、竹島問題についての国民世論の啓発を図る活動を始めます。この地方自治体による独自の資料の収集や啓発活動により、竹島問題は再び注目を集めました。まだまだ不十分と感じる点はあるものの、内閣官房の領土・主権対策企画調整室の設置や、教科書の竹島記述など徐々に成果があらわれています。

私も神道政治連盟もこの島根県の活動に参画し、毎年の啓発行事に協力しています。また、若手神職の会では、毎年、竹島領土平安祈願祭を斎行し、先人から受け継いだ領土・領海内の無用の混乱が速やかに収束するよう祈念しています。

国際情勢が不安定な中、竹島の領土権を確立することは、我が國の平和と安全を守ることに直結します。また、歴史を正しく伝えることにもなり、國や郷土への誇りを育むことにもなるのではないのでしょうか。